

長谷川榮一著「石油をめぐる国々の角逐 通貨・安全保障・エネルギー」

ミネルヴァ書房 2009年2月10日刊を読む

エネルギー最先進利用国を目指して

1. (1)我が国は、国内資源に乏しいが、二度のオイルショックを乗り越え、安価で、石油製品や電気の供給を中断することなく、安定的に行ってきた。
 - (2)エネルギーの消費量を減らしながら、経済成長も続けている唯一の先進国である。
 - (3)資源に恵まれた産油国、産ガス国でも、すぐれた利用の知恵と技術が必要であるに違いない。
 - (4)我が国は、世界のエネルギー最先進国として、力をいかに発揮して、油価の異常な高騰という難局を乗り切っていかなければならない。
 - (5)それはできるはずである。
2. (1)米国で金融混乱が現実のものとなった後でもある08年9月18日付のワシントンポストにヘンリー・キッシンジャー氏とマーチン・フェルドシュタイン氏が、
 - (2)「弱者である石油消費国がエネルギー政策を国際的に協調させることによって、油価を引き上げることができ、そして長期的には投機圧力を駆逐して、強豪である資源国に打ち克つことができる」
 - (3)と投稿していることを最後に紹介しておきたい。

P345

[コメント]

日本と世界の安全保障を考える上で、石油を中心とするエネルギー問題は最大の課題である。一見遠い存在であるようだが、最も身近な存在。それが石油である。難しいと考えず、真正面から考えたい。

- 2009年5月12日林明夫記 -